



# 広島県 遺族新聞

第160号  
平成28年1月1日  
発行所  
一般財団法人 広島県遺族会  
〒730-0036  
広島市中区袋町1番21号  
電話 082(247)1216  
FAX 082(247)1397  
発行責任者 平田 修己  
編集責任者 佐々木 幸雄  
印刷所 株式会社

## 「第七十一回全国戦没者遺族大会」

平成二十七年十二月十五日に自由民主党会館八階ホールで開催されたこの大会に、篠原彌之副会長他役員等五名が参加し、大会終了後、要望事項に対する理解と協力を要請する陳情運動を地元選出国会議員に行った。

陳情先（自由民主党地元選出国会議員）

- 衆議院議員 岸田 文雄氏
- 河井 克行氏
- 寺田 稔氏
- 平口 洋氏
- 小川 敏文氏
- 中川 俊直氏
- 小林 史明氏
- 溝手 顕正氏
- 宮沢 洋一氏
- 石井 みどり氏

### 「大会の概要」

- 一 参加者 四百三十名
- 二 来賓 自由民主党代表 組織運動本部長 山口 泰明氏 他二百七十二名
- 三 経過 現在の厳しい財政状況のなか、公務扶助料、遺族年金等の改善をはじめ、厚生労働省社会・援護局提出概算要求、さらには、戦没者遺児による慰霊

友好親善事業の充実、遺骨収集帰還事業等の拡充強化並びに法制化、全国戦没者追悼式への国費参列者の増員及び式典内容の見直し等々、戦没者遺族の処遇改善に関する要望事項の完全実現を目指し、四十七都道府県遺族会の代表が東京・自由民主党会館ホールに参集し、自由民主党所属の衆参国会議員の先生方を来賓に招いて遺族大会が開催された。



開会の言葉を宇田川剣雄副会長が宣し、国歌斉唱について、靖国の杜に鎮まる二百四十六万六千余柱のご英霊に感謝の黙禱を捧げた。その後、水落敏栄会長挨拶、山口泰明組織運動本部長他来賓あいさつをいただいた後、会議に入り、日本遺族会常務理事 石井順二郎 佐賀県遺族会会長から意見発表が行われた。続いて、大会宣言及び決議が満場一致で採択された。（詳細は、日本遺族通信 平成二十八年一月十五日号をご覧ください。）

### 新年のご挨拶



一般財団法人 広島県遺族会  
会長 平田 修己

新年あけましておめでとございます。ご遺族の皆様方には、平成二十八年の新春をお健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。旧年中は当遺族会に対しまして、



遺族会館全景

あたたかいご理解とご支援を賜り誠にありがとうございました。戦後七十周年に当たっては、八月十五日には日本武道館において天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、戦没者遺族等六千名の参列のもと全国戦没者追悼式が挙行されました。当会からの参列者四十二名は、靖国神社での昇殿参拝を済ませ日本武道館での式典に臨みました。また、沖繩「ひろしまの塔」戦没者追悼式は七十周年記念事業として、十一月十三日に広島県主催で知事・県議会議長及び県議会生活福祉保健委員会委員十名の出席のもとで盛大に実施していただきました。参列遺

### 会員の投稿欄

謹啓 庭に山茶花が咲き誇っております。今年のようなあでやかに咲いたのは初めてです。十月が暖かく晴天続きだったのでと聞ききました。先般はいろいろとありがとうございました。広島県戦没者の追悼式にお参りをさせていただき、良い旅を与えてくださり本当に感謝しております。

若くして戦死された方々の一生を思うとき、私どもが平和でいられることに思いを馳せたものです。また、遺族会女性部研修会に出席出来ましたこと、有意義な時間でありました。忘れ行く世の中で戦争の犠牲になられた方々を偲び、平和な時代に感謝せねばなりません。

沖繩で思ったことですが、南方で亡くなられた方々のお名前がなかったことがさみしく思いました。いつまでも共に供養する心が遺族は求められておられます。忘れてはいけないことととりとめのないことを書いて申し訳ありません。県遺族会の限りないご発展のあることをお祈りします。

十二月十六日  
広島県遺族会さま  
東広島市遺族連合会  
大林 春美

### 謹賀新年

- 会長 平田 修己
- 副会長 篠原 彌之
- 同 小西 照枝
- 同 竹鶴 寿夫
- 同 高橋 伸吉
- 同 古川 巖
- 同 岩崎 正司
- 同 谷原 孝子

族七十九名が南方で散華されたご英霊を偲び、平和に対する思いを新たにいたしました。英霊顕彰運動の根幹であります内閣総理大臣の靖国神社参拝につきましては、七月に日本遺族会の水落敏栄会長が安倍内閣総理大臣あてに靖国神社への参拝要請文を出されました。今後、信念を貫かれ、内外の批判に屈することなく、毅然とした態度で参拝していただけたらものと信じております。



# 平成二十七年度 一般財団法人 広島県遺族会の事業報告

## 遺族会長研修会及び 第一回「戦没者を語る会」の開催

平成二十七年四月三十日に広島市まちづくり市民交流プラザにおいて県内各遺族会の会長研修会を実施しました。来賓として日下仁彦広島県健康福祉局社会援護課長の来賓あいさつをいただいた後、船石幸恵同専門員から特別弔慰金についての説明を受けました。

研修会終了後、第一回の「戦没者を語る会」を開催しました。

最初に硫黄島の遺骨帰還事業に参加されている金井佳治氏から事業の内容と体験談を講演していただきました。続いて遺児の慰霊友好親善事業に参加された平田修己会長をはじめ末成和夫氏、森川慶子氏にそれぞれ体験談と感想を講演していただきました。

講演後に平田修己会長の司会で出席者全員による意見交換が行われました。



戦没者を語る会 (金井佳治氏)



戦没者を語る会 (森川慶子氏)

- 【講師】
- 広島市遺族会 金井 佳治氏
  - 「硫黄島の戦没者遺骨収集帰還事業について」  
広島市遺族会 末成 和夫氏
  - 「平成二十六年度戦没者遺児による慰霊友好親善事業（フイリッピン・第二次）に参加して」  
東広島市遺族連合会 森川 慶子氏
  - 「平成二十三年度戦没者遺児による慰霊友好親善事業（フイリッピン）に参加して」  
一般財団法人 広島県遺族会 会長 平田 修己氏
  - 「平成十九年度戦没者遺児による慰霊友好親善事業（東部ニューギニア地域）に参加して」

## 「全国戦没者追悼式団体参列」

平成二十七年八月十五日、日本武道館において、天皇皇后両陛下のご臨席を仰いで、全国戦没者追悼式が行われた。県遺族会から平田修己会長を団長として三十九名が参列しました。

前日、新幹線により上京、昭和館で戦中戦後の暮らし等を勉強しました。

翌十五日の当日は靖国神社に昇殿参拝を行った後、記念撮影を行いました。

式典は各都道府県からの遺族参列者約六千名が出席し、十一時五十分には天皇皇后両陛下がご臨場され、国歌斉唱、安倍内閣総理大臣の式辞、黙禱の後天皇陛下のおことばがあり、追悼の辞、献花が行われて滞りなく閉会しました。

式典終了後、戦後七〇周年記念事業として、成田山新勝寺、東国三社巡りを行い翌日帰路に就きました。

なお、昨年の秋季例大祭中に国会議員一六九名が参拝され、うち大臣は三名が参拝されましたが、広島県内の国会議員の参拝は、比例区選出の小島敏文衆議院議員わずか一名となっており、周辺県の国会議員に比較して理解が得られていません。

また、近年の護国神社への知事参拝は、全国で二十五県程度でありますが、併せて靖国神社への参拝も定着させるように要望活動を行っていく必要があります。

遺族会としては、「総理及び閣僚の靖国神社参拝」を定着させ、今上陛下ご親拝の途を啓いていただくことを待ち望んでいます。

県内各遺族会における英霊の顕彰運動も、遺族の皆様と行政の連携により、厳粛に執り行われています。会員の皆様方のご努力に対して敬意を表する次第であります。昨年は、各遺族会の慰霊祭・追悼式に出席させていただき、戦没者へ哀悼の意を表するとともに会員の皆様とも親しくお話しすることが出来ました。

戦没者遺族の処遇改善につきましては、日本遺族会が国へ要望した事項は、ほぼ満たされたものとなっております。

戦没者遺児による慰霊友好親善事業の充実、遺骨収集帰還事業の

拡充強化等の諸問題の解決に向けて、日本遺族会の活動を支援していかねばなりません。

当遺族会に対する県からの補助金が始めて増額され、新たに「戦没者を語る会」の開催、戦後七〇周年記念記録事業、ホームページの作成が認められました。「戦没者を語る会」については四月に遺族会長研修会の後に四名の講師により行い、また、十一月には女性部研修会において七名の講師により実施しました。そのほか二遺族会において開催されています。戦没者の人柄・足跡等について遺族が語られた内容をビデオカメラで記録して、現在作製中のホームページに動画を投稿する準備を進めています。また、ホームページについては、日本遺族会及び当遺族会実施の各種事業を紹介し、申請用紙等も入手できるようにしています。これまで各会長、女性部長、事務局に文書で連絡していた情報が遺族の方に広く、早く手元に届くようになります。

当遺族会も、今後ますます会員の高齢化が進み、各遺族会の活動が衰退する虞があります。組織を維持発展させるため、各遺族会で青年部員の勧誘を進めていただき、今年中には青年部の正副部長を委嘱したいと考えています。

## 新年のご挨拶



広島県健康福祉局長 笠松 淳也

新年明けましておめでとうございませう。

御遺族の皆様には、お健やかに新しい年を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

一般財団法人広島県遺族会におかれましては、創立以来、会員の皆様への強い結束のもとに、戦争犠牲者の慰霊や御遺族の福祉の増進

今後とも英霊の顕彰を絶えることなく継続させ、戦争の無い平和な世界実現の願いを、戦後に育った人々に伝えていくための中心的な団体として、遺族会を存続させなければならぬと思います。

私も当面する問題を解決するため、全力を尽くして参る所存でありますので、皆様方の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭に当たり、ご遺族の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

等の各種事業を積極的に推進されることにも、戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に伝えていくための取り組みをされておられることに對しまして、深く敬意を表します。

昨年は、先の大戦が終結して、七十年の節目の年を迎え、全国戦没者追悼式において本県の御遺族が青少年世代を代表して献花を行うなど若い世代への取り組みも行われました。戦後七十年が経過し、人々の戦争の記憶が風化していく中、戦争の悲惨さを若い世代に語り継ぎ、戦禍により貴い命が失われることが二度とないよう、恒久平和の実現に努めていくことが、今を生きる私たちの使命であると考えています。

県といたしましては、引き続き国と連携を図りながら、今日の繁栄の礎となられた戦没者の方々に深く思いをいたし、戦没者の御遺族に対する援護事業の充実にもむけ取り組んで参ります。

今後とも、会長を始めとする会員の皆様方の一層の、御理解と御支援をいただきますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、貴会のみならず御発展と、会員の皆様への御健勝を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



戦後七十周年沖縄『ひろしまの塔』戦没者追悼式団体参列

平成二十七年十一月十二日、篠原 彌之副会長を団長とする七十九名の参列団は、広島空港を出発し、沖縄に向かった。

当日は、沖縄護国神社参拝、海軍司令壕を視察した後、ホテルへ。翌十三日は、平和の礎参拝・平和祈念資料館及びひめゆりの塔記念館を見学の後追悼式会場である糸満市に向かい、午後一時三十分から挙行された追悼式に参列しました。

追悼式には、沖縄県知事（代理）を始め、六名の来賓が出席され湯崎英彦広島県知事の式辞・平田修己県議会議長の追悼の辞に続いて篠原彌之団長から追悼の辞が述べられた。その後、参列者全員の献花が行われ追悼式は、午後三時十分滞りなく終了しました。式後に参列者全員の記念撮影が行われました。

式典終了後、一行は伊計島に向いました。翌十四日は世界遺産グスク勝連城跡等を見学後、那覇空港において解団式を行った後、十五時十五分に全員無事広島空港に到着し、参列を終えました。

一 「ひろしまの塔」の概要

昭和四十二年三月 知事、県議会議長を世話人とする「ひろしまの塔」を建設するための広島県戦没者沖縄慰霊塔建設委員会が発足

昭和四十三年五月 完成、除幕式

二 合祀者等

- ① 合祀者数 三万四千六百三十五柱
- ② 合祀者の範囲 昭和十六年十二月八日以降の、いわゆる太平洋戦争での戦没者。
- ③ 戦死者の範囲 フィリピン 九千九百八十八柱、東部ニューギニア 九千六百六十五柱、ビスマーク・ソロモン諸島 八千八百四十一柱、ビルマ・インド 千四百六十二柱、沖縄・南西諸島 千二百七十一柱、ベトナム等 九百六十四柱、硫黄島 七百八十七柱



遺族献花

「女性部研修会」及び

「第二回戦没者を語る会」の開催

平成二十七年女性部研修会は、竹原市の賀茂川荘において十一月二十六日・二十七日に各支部からの出席者二十八名により、盛大に実施された。

当日は、平田修己会長及び小西照枝女性部長の挨拶の後、女性部長七名が講師となり「第二回戦没者を語る会」を開催した。四時から日本遺族会会長 水落敏栄氏から中央状況についての講演が行われた。

翌二十七日は、竹原市の町並み保存地区の見学会を行った。



女性部研修会

「戦没者を語る会」県内遺族会での開催

県内では、江田島市遺族連合会及び世羅町遺族会において実施をしていただきました。内容は次のとおりです。

一 江田島市遺族連合会

日時 平成二十七年八月七日

場所 江田島市江田島町幸ノ浦集会所  
旧陸軍船舶練習部第十教育隊慰霊碑前

参加者 五十四名

講師 江田島市遺族連合会 副会長 橋本 静之氏他二名

演題 特攻隊の歴史を学ぶ  
世羅町遺族会

日時 平成二十七年十月二十三日

場所 あぶと別館

参加者 五十九名

講師 遺族会会員 織田 晃博氏 「父への思い」  
遺族会会員 久保 勤氏 「父への思い」  
遺族会会員 福岡 洋三氏 「戦後七十年の思い」

「講師」

- 三次市遺族会連合会 深見 俣子氏 「海に眠る父の思い出」
- 東広島市遺族連合会 大林 春美氏 「亡き兄を想う」
- 東広島市遺族連合会 小西 照枝氏 「母に感謝」
- 三原市遺族会 谷原 孝子氏 「戦争の傷あと」
- 尾道遺族会 奥田 久枝氏 「奥本芙美枝さんの戦後体験記」
- 福山市遺族会 門藤 久子氏 「父の墓前にぬかずきて」
- 神辺町遺族連合会 桐島 浩子氏 「父の思い出」



第2回 戦没者を語る会



世良町遺族会 (久保勤氏)